

OFC News Letter vol.2

OGATA FAMILY CLINIC

はじめに

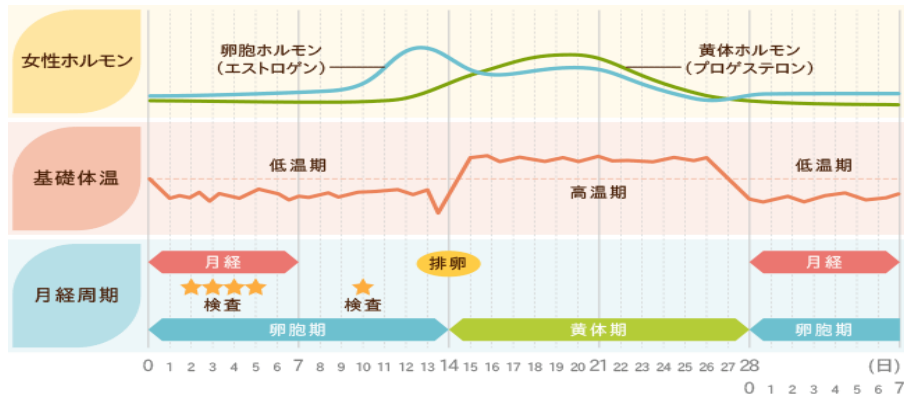
前回初めて作ったOFC News Letter不評だったら・・・と思いましたが多くの皆様の読んでいただけてとてもうれしかったです。前回の予告通り、今回は月経周期と男性ホルモンについてお話しします。

月経周期について

月経とは前周期妊娠が成立しなかったとき、黄体ホルモンが下がり内膜がはがれることで出血が起こってきます。月経が始まった3日目ぐらいにエコーで見ると、今周期に育ってくる卵胞が数個(約3~4個)見えてきます。いくつか見えていた卵胞は、体が良いと思われる卵胞を1個だけ選んで発育排卵させます。排卵した後、卵胞は黄体化して黄体ホルモンを出して妊娠がうまくいくように子宮の環境を整えます。妊娠が成立すれば月経は来ませんが、不成立の場合月経がまた来ることになります。

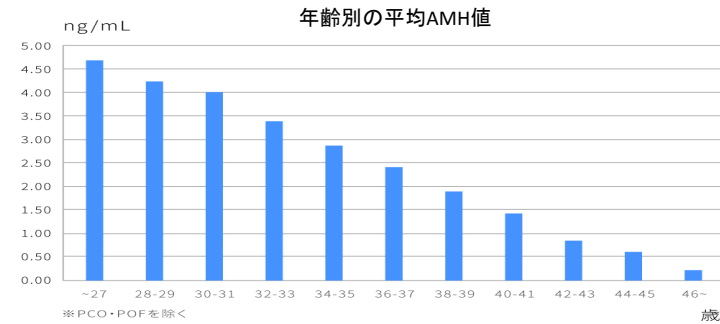
月経周期の乱れがある場合はホルモンバランスがうまくいってない場合があります。その時は良好な卵子が育っていない場合があるのでピルなどを飲んで周期を整えたりします。

基礎体温上、卵胞が育つときは低温で卵胞期と言われ、体温がそこから下がった時を排卵期、排卵すると体温は上昇し黄体期となります。



AMHについて

卵子は生まれた時から卵巣の中に決まった数(約200万個)だけあり、増えたりすることはなく排卵によって減少していきます。今は抗ミュラー管ホルモン (AMH) を調べる(採血でわかります)ことで、卵巣にどれくらい卵子が残っているか推定することができます。その値によってどの治療が適しているかの目安になります。



男性ホルモンと男性不妊

男性ホルモンはアンドロゲンと呼ばれ、主なものとして、テストステロン、デヒドロエピアンドロステロン(以下DHEAと明記)、ジヒドロテストステロンの3種類があります。この中のテストステロンは精巣内で作られ精子形成に大きくかかわっています。

また、女性も大きく関わるFSH(卵胞刺激ホルモン) LH(黄体化ホルモン)も精子の造成に関係しています。射出された精液を検査した際に、精子が見つからない方がいます(無精子症)。その原因は閉塞性と非閉塞性に分かれますが、閉塞性とは精管が何らかの原因で閉塞しており、精子は作られているが体外に出ない状態で、非閉塞性とは、精管は異常がなく精巣の機能が低下しており射出精液内に精子を認めないことをいいます。

無精子症の方も手術で精子が見つかる方もいて、顕微授精を行うことでお子様を授かることが可能です。当院でも月に1回男性専門の泌尿器科医師(生殖医療専門医)が診察を行なっています。男性専門なので診察が受けやすいと思います。

又上記で述べたDHEAは元々エストロジオールの元にもなるホルモンで女性にも大変有効です。このホルモンは年齢とともに減少してきます。エストロジオールはエストロゲン(卵胞ホルモン)の主な成分でもあるので、減少してしまうと卵子の成長や子宮の内膜形成もスムーズにいかなくなってしまいます。DHEAは男性女性ともに大切なホルモンで、サプリで摂取出来ます。当院でもDHEA(くれぐれもDHAとお間違いなく)を販売しています。興味のある方は受付までどうぞ!